

参議院議員選挙岩手選挙区候補者への公開質問状

2025. 7. 5

「暮らしと政治の勉強会」は今回の参議院議員選挙で、私たちの暮らしに直結する政治に関心を持って投票してほしいと、候補者に公開質問状を送りました。頂いたご回答は多くの方に見てもらい、私たちの代表を選ぶ投票の判断材料にしたいと思います。質問状は5月から立候補を表明している候補者に打診し、6月に送付して回答を頂きました。NHK 党の吉田博信氏は7月1日の立候補の表明だったため、質問状を送れませんでした。申し訳ありませんが、ご了承ください。

※候補者の回答到着順に掲載します。平野達男氏→平野、横沢高德氏→横沢、及川泰輔氏→及川。敬称略。

【経済・消費税】

物価高で国民の暮らしが厳しいなか、消費税の見直しが議論されています。消費税の廃止や税率を下げることで景気は回復し、国民の暮らしは良くなると思いますか。また、他に景気対策のお考えがあれば教えてください。

平野： 物価が上がりそれに消費税が課税されることで、国民の負担感が重くなっていることは十分理解するところです。しかしながら、物価対策として消費税の廃止や税率の引き下げをすることには、それに代わる財源措置がない限り、反対しなければなりません。消費税は、年金、医療、介護などの社会保障制度の財源です。減税等による社会保障制度の財源を赤字国債で埋め合わせをすることは、将来世代への負担の先送りであり、適切ではありません。また、税率を下げることで景気回復つながるかについては議論が分かれるところです。物価対策を赤字国債に頼らない給付、ガソリンや電気料金の引き下げなどのよって迅速に行うべきです。また、高騰しているコメの小売価格の引き下げは、急務です。

横沢： 物価高の高止まりが続き、消費者が疲弊している。暮らしに欠かせない食料品の消費税を廃止し、暮らしを支える必要がある。

及川： 良くなると思います。税金と社会保険料の国民負担率を現在 46%とも言われているところ、35%のキャップをはめて、個人の手元に残るお金を増やします。

【食糧・農業】

米不足と米価の高騰が問題になっています。また、米農家の後継者不足と資材高騰により米農家の半分以上が廃業しており、日本の主食の米の自給が危ぶまれ、米の輸入拡大が検討されています。米不足や食糧全般の自給問題についてのお考えはありますか。

平野： コメに関しては消費者が納得できる小売り価格となること、生産者が安心して生産を継続できる販売価格となることが大切。これまで、資材価格の高騰など生産費がコメの販売価格に反映されてこなかったことから、生産費と販売価格の差を補填する制度を導入すべきです。コメの輸入拡大は必要ありません。主食用のコメはわが国で自給が大原則です。麦、大豆、飼料作物などの自給率はもっと上げるべきです。

横沢： 生産者が意欲をもって農業を続けられるよう、戸別所得補償制度を創設し、農村・農業を守っていく必要がある。

及川： 食管法を復活させて、米農家さんの所得を補償します。

【社会保障・子育て】

少子高齢化社会は、産業の人材不足や年金などの社会保障サービスの低下につながり、暮らしの不安を増大させています。どうしたら、安心して出産や子育てができ、将来に不安のない社会をつくれると思いますか。

平野： 働く現役世代の賃金のアップによる生活の安定とともに、周産期医療体制や産後ケア体制の整備、出産費用への補助、子育て支援を充実させることが必要です。同時に出産や子育て支援を充実したとしても、それが少子化にどの程度効果がでるかは未知数であることにも留意が必要です。また、70 歳以下では年齢が若いほど人口が少なく、0 歳児の人口が最も少ない、という現在の人口構成からわかるように、これから数十年以上にわたって人口減少が進むと想定する必要があります。人口減少に適応した社会の構築が求められます

横沢： 地域間格差が広がる中、どこに暮らしても平等で安心な支援を受けられる体制を構築すべき。また出産後も希望して働く女性への支援拡充をするべき。

及川： 子育て支援として0歳～15歳のお子さん1人当たり1か月10万円の教育給付金を支給します。就職する前に、結婚と出産子育てを行った女性に対しても、それがキャリアとなる仕組みを作ります。

【地方創生】

東京の一極集中や、若者(特に女性)の地方からの流出が問題となっています。国として地方の未来をどのように考え、具体的にどのように取り組まれますか。

平野： 異なる歴史、文化、伝統をもつ多様な地方があることが、国の活力の源泉です。働く場の育成がまず第一。各地域での農業などの一次産業の強化、生産性が高く経営力のある中小企業・小規模事業者の育成と合わせ、先端産業などの地方移転を国主導で進めるべきです。

横沢： 災害から人や暮らし、経済を守るためにも地方分散が必要。加えて地方の格差を無くすためにも東京一極集中の是正が必要である。

及川： 東京に集中する省庁を地方に分散させます。また地方へのインフラ事業投資を行い、雇用創出します。一次産業従事者を公務員化するなど、地方公務員を増やします。地方に生まれてもそこで生きていける環境を整えます。

【教育】

不登校児童生徒の増加や、こどもの自殺の増加、教師のメンタルヘルス等、現代の教育は大きな問題を抱えていると考えています。日本の教育問題の具体的にどのように取り組んでいきたいとお考えですか。

平野： 不登校児童の増加、こどもの自殺の増加への対応を、教育現場だけに任せることなく、社会全体の問題として取り上げ、その原因をよく整理し対策を練り行動することが必要と考えます。政治、行政は、保育園、小中学校の教師がどういう問題意識をもっているかを、把握するとともに、こどもたちが何を考え、何を思っているのか、こどもの声を聞くことも重要です。

横沢： 年々増加するいじめや不登校生徒数の増加に加え、相談ダイヤルへの相談件数も増加している。教員だけでなく地域ぐるみで子供を見守る温かいコミュニティの強化が必要。

及川： 前述の教育給付金を活用してもらい、公立以外の選択肢を増やします。フリースクールや民間学校、子供の居場所作りを行います。

【憲法】

憲法改正か護憲かで世論が分かれています。今年は戦後80年、戦争に参加しなかったのは日本国憲法のおかげと言われます。今後改正されると戦争ができる国になるのでしょうか。改正に賛成か反対かと、その理由は何ですか。

平野： 国内外の大きな情勢変化、国民の意識の変化を踏まえた憲法の見直しは必要です。例えば自衛隊は戦力でありながら、戦力を保持しない、という憲法の規定とは明らかに矛盾します。国の防衛（自衛）のため自衛隊は必要です。憲法に自衛隊保持を明文化すべきです。憲法改正をすると戦争をする国になる、ということにはなりません。不戦の誓いを忘れることがあってはなりません。

横沢： 拙速な改憲・改悪は絶対に避けるべきである。

及川： 私達参政党はそのどちらでもなく「創憲」という立場です。戦争に負け、戦勝国の干渉がある中で作られた現行の憲法ではなく、もう一度日本人の手によって新しい憲法を作るべきだと考えます。

【沖縄・防衛費】

沖縄と西南諸島に自衛隊の軍事基地が進められて、有事の際の島民の避難訓練まで行われています。2023年度から防衛費を5年間で倍増して43兆円にしました。軍備増強は国民の生活よりも必要なことでしょうか。

平野： 日本周辺の地政学的状況は予断を許しません。平和の維持のため、外交努力を中軸とすることは言うまでもありませんが、国民の生命と財産を守るため有事に備えることも必要です。防衛費の増大は避けたいところですが、周辺の国々の大幅な軍事力増強に対抗した抑止力を保持することもやむを得ないことであると思います。

横沢： 国民の暮らしを守り、日本の安全を守ること、その両立をしっかりと検討するのが政治の役割。

及川： 今、日本を取り巻く世界情勢から国民の命を守るためには、武力を手放さない国が近くにある以上、外交と並行しながらの軍事防衛も必要だと考えます。ただ予算とその使い方については議論が必要だと考えます。

【辺野古問題】

多くの沖縄県民が反対している辺野古の埋め立て工事を政府は代執行で強行しました。軟弱地盤でどれだけの費用と年数がかかるかわからない工事に税金を投入し、国民の声を無視した政策のようですが、どうお考えですか。

平野： いわゆる太平洋戦争がもたらした沖縄の惨状をすべての国民は知っておく必要があります。また敗戦によって、沖縄に米軍基地が多数おかれることになったことも。辺野古基地の建設は、沖縄にとってより安全な基地を設置するという意味で、推進せざるを得ない、と申し上げるしかないことは大変心苦しいことです。

横沢： 工事の中止と対話での解決が必要だと思われる。

及川： もっと幅広い沖縄県民の声を集めて精査すべきと考えます。

【エネルギー】

福島原発事故以来、ドイツ等西欧諸国では脱原発を表明しました。しかし日本は再稼働し、原発耐容年数を60年に延長し、再び原発依存に向かっています。一方、風力発電や太陽光発電等の再生可能エネルギーの乱開発による自然環境の破壊が各地で問題になっており、外資系企業は20年後には山を破壊した巨大ゴミを片付けずに撤退するといわれます。国の再エネ事業推進や原発回帰の政策など、今後のエネルギー政策をどのようにお考えですか。

平野： 現在のような経済力、生活の快適性や利便性を求めるのであれば、エネルギーの確保は必須です。原発は原子力規制委員会の厳しい審査を徹底し、合格したものは再稼働を認めるべきです。核燃料サイクルは、技術的な困難性は依然として高いと認識しており、推進には懐疑的です。使用済み核燃料の最終処分をどうするか、大変難しい問題ですが、先送りせずできるだけ早く結論を出し、具体的に動き出すべきです。自然環境に配慮しつつ、再生可能エネルギーは拡大していくべきです。

横沢： 汚染水の排出により漁業者を中心に風評被害が相次いでいる。太陽光パネル等、処分含め環境に配慮したエネルギー政策を講じる必要がある。

及川： 現在の再生可能エネルギーに変わる新たなエネルギー開発が急務と考えます。

【熊の問題】

熊が町に下りてくる問題は、奥山の荒廃や再エネ事業の乱開発が原因とも言われます。鳥獣被害を理由に、熊を「棄権鳥獣」と定義して捕殺する方向でいます。熊は水源の森を守る大きな役割もあり、熊の問題をどうお考えですか。

平野： 大変むずかしい課題です。熊が里や町に降りて行いようにするには何が必要なのか。生態系全体の問題として考えていく姿勢も大切です。しかしながら、現実の問題として、駆除することを全面的に排除できる状態にはないと思います。

横沢： 山の餌不足等の要因から、人里に来るようになったもの考える。人と野生動物の暮らしの住み分けをしっかりとすることで、共存できるもの考える。

及川： 豊かな奥山の環境を壊す再生可能エネルギーの開発には反対です。また、外資による日本の山、水源の購入も止めなければなりません。

【多様性・夫婦別姓】

選択的夫婦別姓は30年以上棚上げされてきて、今国会でもまた先送りされました。これは人権に関わる問題で、世界でも日本だけと聞きます。選択的夫婦別姓について賛成ですか、反対ですか。その理由は何でしょうか。

平野： 選択的夫婦別姓導入には、まだ慎重であるべきです。

横沢： 多様性を認めあう社会、人権に配慮する社会の構築を、今後とも目指していく。選択的夫婦別姓を必要としている方の声を今後も届けていく。

及川： 反対です。現行の旧姓使用拡大で充分と考えます。日本の戸籍制度は他国に類をみない財産だと考えます。